

「ふくすいき

令和6年1月号

～福水企～」通信



企業団キャラクター
ピュータくん

この「ふくすいき～福水企～」通信は、福岡地区水道企業団、各構成団体などの情報交換のために毎月発行しています。

発行：福岡地区水道企業団 総務課
福岡市南区清水四丁目 3-1
TEL 092-552-1731(代)

■ 令和6年新春のご挨拶

企業長 なかむら 中村 たかひさ 貴久

新しい年を迎えるにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

本年は元旦より能登半島を大規模地震が襲い、改めて水道施設など社会基盤施設の重要性を強く認識したところであります。被災されました皆様に心よりお見舞いを申し上げますとともに、早急な復興を願っております。

福岡都市圏は、水道用水の約3分の1を筑後川に頼っており、そのほとんどは福岡導水より送水されています。大規模地震災害時においても水道用水の安定的な供給を行うため、事業主体である（独）水資源機構と協力して、福岡導水の地震対策事業を進めており、早期完了に努めてまいります。

加えて福岡都市圏内におきましても、大規模地震に備えた耐震化及び危機対応のための機能強化を計画的に推進しており、引き続き危機管理の充実を図ってまいります。



当企業団は、令和5年6月に設立50周年を迎え、水源確保にご理解・ご協力いただいた水源地域や流域の皆さまへの感謝の気持ちを、改めて福岡都市圏のみなさまと共有し、「ありがとうのメッセージ」に苗木などの緑を添えてお届けすることができました。ご協力いただいたみなさまに感謝申し上げますとともに、今後とも水源地域への感謝の気持ちを忘れずに、福岡都市圏の生活を支える「安全で良質な水道用水を安定的に供給する」企業団の使命を果たすべく、職員一丸となって取り組んでまいります。

さらには、今後は地球温暖化対策に寄与する、日本初の「浸透圧発電の実用化」という新たなチャレンジに福岡都市圏一体となって取り組んでまいります。皆さまのご支援、ご指導をよろしくお願いいたします。

皆さまにとって、今年が良い年となることを祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

■ 企業団・構成団体の動き

● 筑後川の水を利用されている皆様へ『節水』についてのお願い〔12/19（火）広報〕

福岡都市圏の水道水の約3分の1は筑後川からの水によって賄われています。

しかし、筑後川流域では、令和5年8月から少雨傾向が続き、特に9月から11月の降水量は、江川ダムが管理開始された昭和50年以降で最も少なく、筑後川の各ダムでは放流が続き、貯水率が低下している状況です。

今後も少雨傾向が続けば、ダムの貯水率も一層厳しい状況になることが想定されますので、福岡都市圏の皆様には、限りある水資源の有効利用のため、より一層の節水にご協力をお願いいたします。



● 令和5年第4回幹事会【開催しました】〔12/7（木）Web会議〕

令和5年の8月以降の少雨を受けて、福岡地区水道企業団の構成団体（6市7町1企業団1事務組合）の水道関係の部課長を委員とする令和5年第4回幹事会を開催し、水源の状況などについて説明しました。

<総務課 佐藤>

● 全国水道企業団協議会第28回地区協議会事務担当者連絡会議【開催しました】〔12/7（木）～8日（金）西鉄グランドホテル・乙金浄水場など〕

全国水道企業団協議会7地区の地区協議会での円滑な事業運営と相互の連絡及び交流を図るため、全国水道企業団協議会第28回地区協議会事務担当者連絡会議を福岡市の西鉄グランドホテルで開催しました。

連絡会議では、令和6年5月に福岡市で開催される全国水道企業団協議会第68回総会についてなどが話し合われました。

また、8日には、乙金浄水場などを視察しました。



視察の様子

<総務課 佐藤>

● 筑後川水道三企業団協議会 三部会事業報告会【開催しました】〔12/15（金）福岡市〕

福岡県南広域水道企業団、佐賀東部水道企業団及び当企業団で構成する筑後川水道三企業団協議会には、水質・工務・事務の三つの部会が置かれており、各部会においてそれぞれ専門分野に関する調査研究等を行っています。

各部会の活動成果を今後の業務に活かすことを目的とした事業報告会を、今回は当企業団の担当によりTKPカンファレンスシティ博多で開催しました。当企業団からは中村企業長をはじめ16名が参加しました。

まず、水質部会から「水質部会の活動報告」（当企業団水質センター：藤本係員）、工務部会から「活性炭注入設備の先進



報告会の様子

地視察報告」、事務部会から「事務部会の活動報告」の報告が行われました。

続いて、令和5年10月の日本水道協会全国会議で発表された発表論文1題について、福岡県南広域水道企業団からの報告が行われました。

また各報告後には、それぞれ活発な質疑応答が行われ、活動の成果を三企業団で共有することができました。

<総務課 牟田>

●令和5年度企業団定期監査講評【開催しました】〔12/25（月）企業団会議室〕

定期監査は、令和5年7月27日に事業概況聴取を行い、8月7日から11月3日にかけて、各課の事務・工事等の書類審査及び実地調査を実施しました。

この定期監査の講評が12月25日に行われ、^{おおもりかずま}大森一馬代表監査委員(福岡市議会議員)から「地方公営企業法に基づき財務に関する事務の執行及び業務の運営並びに工事等は適正に行われ、また、諸帳簿、設計書等関係書類についても、関係法令、規則等に従って作成され、その処理状況はおおむね良好」との総括意見がありました。

これに対し、企業長より「今後とも、適正な事務の執行を行いながら、福岡都市圏住民の皆さまに、安全で良質な水道用水を安定供給できるよう取り組んでいく」との決意表明がありました。

<監査事務局 山田>

■ 新たなチャレンジ「浸透圧発電」の実用化

●浸透圧発電の実用化について共同記者会見をしました〔10/6（金）〕

海水淡水化センター「まみずピア」において、脱炭素社会の実現に向けた取組として、日本で初めての「浸透圧発電」の実用化に取り組みます。

浸透圧発電は、二酸化炭素を全く発生させない、自然現象である浸透現象を利用するもので海水と淡水の塩分濃度差により生じる「浸透圧」により発電します。

今回の施設では、「まみずピア」で海水から真水を作るときに排出される濃縮海水（通常の海水より塩分濃度が高い）と、「和白水処理センター」から排出される下水処理水（淡水）という2つの排水を用いて発電を行い、発電量や発電効率の検証を行います。

今回はエネルギーを得やすい濃縮海水を使用して発電しますが、将来は、「世界中の水の約97.5%を占める普通の海水でも発電可能」と考えています。使う海水の濃度が違っても、基本システムは変わらないため、今回の実用化で得られた検証結果等をもとに、専用の膜の開発やシステムの最適化が進めば、世界中で発電が可能となる「夢の技術」になると考えています。そして、その第1歩を踏み出すことができるのは、濃縮海水を安定して提供できる「まみずピア」がある、当企業団だけです。

水資源に恵まれていない福岡都市圏は、筑後川からの流域外導水や海水淡水化センターにより水道用水を確保しなければならない特殊な水事情を抱えており、当企業団の用水供給事業には多くの電力を必要とします。



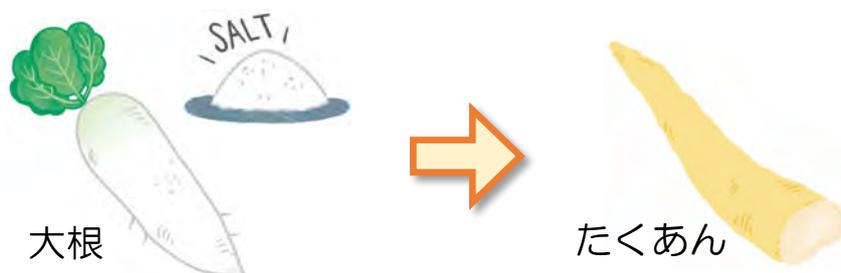
これらのことから、「安全で良質な水道用水を安定的に供給する」という当企業団の使命を果たしながら、地球温暖化対策に可能な限り取り組んでいます。企業団内の取り組みだけでは限界があります。このため、今回の浸透圧発電のように企業団だけではなく民間企業とも協力して、世界に展開できるような事業にもチャレンジすることで、さらなる地球温暖化対策に寄与したいと考えています。

<計画調整課 松尾>

●浸透圧発電について

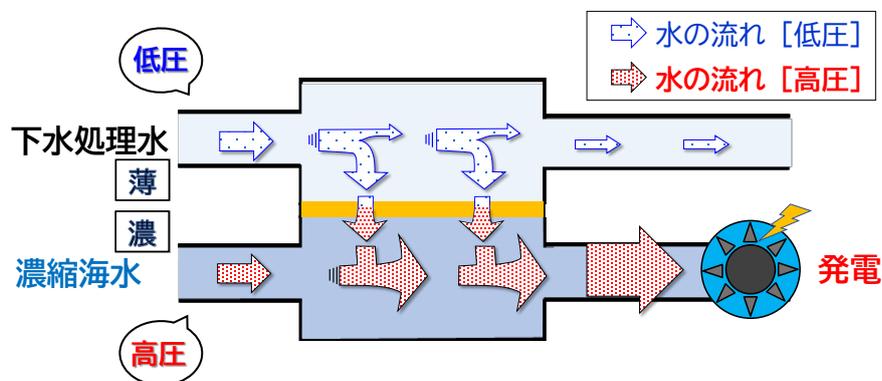
○浸透圧とは

- ・水は濃度の薄いほうから濃いほうに移動し、同じ濃さになろうとします。この水の移動のことを「浸透」といい、水が移動しようとする力を「浸透圧」といいます。
- ・身近にある自然現象「漬物の原理」と同じ原理です。
(大根に塩を振ると水分が抜けて、たくあんになるのも同じ)



○浸透圧発電の原理

- ・濃度の違う濃縮海水と下水処理水を、「浸透膜」という水だけを通す特別な膜を挟んで触れ合わせることで、同じ濃度になろうと、水が移動する力、浸透圧が発生します。このとき、濃度の薄い下水処理水から、濃い濃縮海水側へ移動します。
- ・もともと流れていた濃縮海水と、移動してエネルギーを獲得した水が勢いよく水車に流れ込み、タービンをより多く回すことで発電量を増加させます。



○浸透圧発電のポイント

・排水という未利用資源から、新たな価値（エネルギー）を創出

①濃縮海水と②下水処理水、どちらも海に放流している2つの排水「未利用資源」を活用して、新たなエネルギーを生み出します。

- ①海水淡水化センターから排出
- ②和白水処理センターから排出

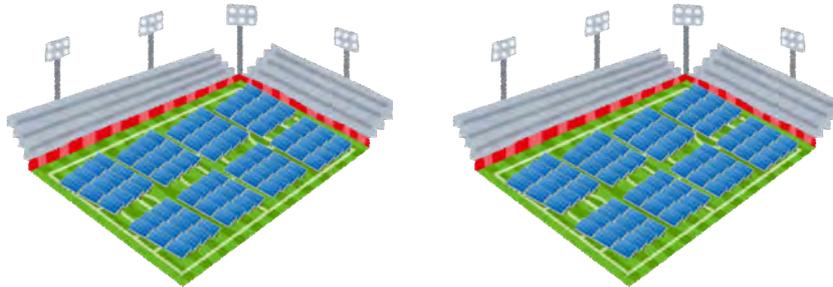


・高い稼働率

太陽光発電と比べ、浸透圧発電は、日照時間に関係なく昼も夜も24時間稼働することができます。また、雨などの天候の影響も受けません。年間を通して効率的、安定的な発電が可能です。

○想定発電規模

今回の施設では、サッカーグラウンド約2面分の太陽光パネルに相当する発電をすることができると見込んでいます。



●基本協定の締結【12/26（火）】

当企業団、発電設備の建設等を行う協和機電工業株式会社、下水処理水の提供を行う福岡市の3者で、事業内容や役割分担等の事業実施に関する基本的事項について定めた「基本協定」を締結し、年度内着工に向け、設計協議等を進めています。

引き続き、令和7年度からの発電開始に向け、設計、工事をしっかりと進めていきます。



※「浸透圧発電」を稼働させる
海水淡水化センター（まみずピア）

■ 企業団設立 50 周年記念事業

● 福岡地区水道企業団設立 50 周年記念事業について

設立 50 周年の各記念事業については、企業団 50 周年誌（暫定 WEB 版）に状況及び報告を掲載していますので、ぜひご覧ください。

＜総務課 柁井＞

企業団 50 年のあゆみ（Web 版）第 9 章 第 2 節



● 水源地域に「ありがとうの森」パネルを設置

水源にめぐまれない福岡都市圏では、圏内 260 万人の暮らしを支える水道水の約 3 分の 1 は、圏外の筑後川から送られています。

このことを多くの人に知っていただき、そこから生まれる水源地域への感謝の気持ちを目に見える「ありがとうのメッセージ」として、寄せていただきました。

筑後川の恩恵を受ける福岡都市圏の水事情について多くの人に知ってもらう機会を設け、そこで生まれた感謝の気持ちを言葉にさせていただく。ありがとうの森プロジェクトでは、集まったたくさんの「ありがとう」を目に見える形で水源地域にお届けすることができました。

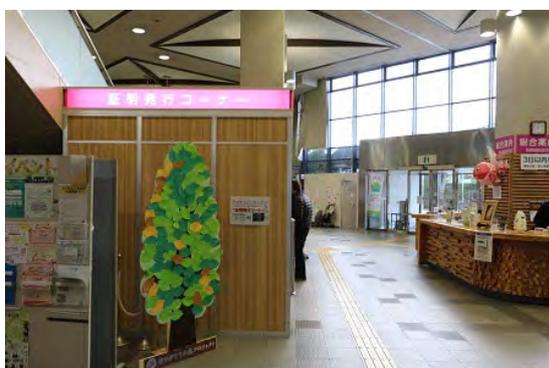
具体的には、令和 5 年 12 月 7 日（木）に吉野ヶ里町、日田市、うきは市、朝倉市に「ありがとうの森」パネルを届けました。それぞれが、住民の皆さんの目に留まる場所を工夫してくださり、設置させていただきました。

今後も、引き続き久留米市、東峰村にパネルをお届けする予定です。

＜総務課 川中＞



吉野ヶ里町コミュニティホールの玄関



日田市役所の玄関ホール



日田市複合文化施設の博物館出口



うきは市市民ホールの玄関ホール



パネルが外から見える朝倉市役所

● 記念事業にご協力いただいた方々から事業への感想などのコメント

記念事業としては、「ありがとうの森プロジェクト」以外にも、福岡テンジン大学と共催で水について学ぶ連続講座、九州大学芸術工学部の学生による記念ロゴの制作、九州産業大学で映像制作を学ぶ学生により、福岡導水を題材とした小学生向けの学習動画素材の制作などを実施しました。

また、エイブルアートのPICFA（ピクファ）がまみずピアでライブアートを実施し、トラックの幌に「水」をテーマとした作品を制作していただきました。

さらに、福岡都市圏の大学に通う学生を対象に創設したマネジメントスタッフ（学生おうえん隊）による活動や高校生たちによる校内や街頭で感謝の言葉を集める取り組みなど、多くの皆様の支えにより実現できたものと感謝しております。

そこで、記念事業にご協力してくださった皆様から、事業への感想などのコメントをいただいておりますので、ご紹介いたします。

福岡テンジン大学 学長 岩永 真一 様

お声掛けいただき、計4回の市民向け体験型イベントを企画させていただきました。

生まれも育ちも福岡市民として、平成大渇水も経験し、水不足の都市であることは知っていたものの、現在までにここまでの水供給システムを構築し、世界トップクラスの節水都市を築き上げていたことを、恥ずかしながら知りませんでした。

4回の企画を通して、水不足の背景から都市の成長と人口増加、渇水が起きないように広域連携したこと。各水源地と連携を取り、市民の生活を守り続けていたこと。当たり前だと思っていた水に、背景を学ぶだけでありがたみを感じることができ、同時に福岡のまちにより愛着が持てるようになりました。イベントに参加した方々へも、そのおすそ分けができたと感じています。

50周年という節目に、自分のまちの大事な一面を知り、その事業に関われたことに感謝いたします。

福岡大学工学部社会デザイン工学科 助教 伊豫岡 宏樹 様

福岡地区水道企業団設立50周年おめでとうございます。大学では福岡地区の水事情などについて話すことも多いですが、自分たちの住む地域が水に恵まれていないという実感を持っている学生はとてもの少ないように感じています。福岡地区水道企業団による50年の努力によって福岡地区の安定的な水供給が可能になった結果とも言えますが、福岡地区の地理的な特徴から意識が遠のいているという危機感も感じます。今回の事業では、参加してくれた今後のまちづくりを担う若い人たちにとって、改めて福岡都市圏の実情に目を向けるよい機会となったのではないのでしょうか。微力ながら記念事業に関わらせていただく中で、福岡都市圏の水事情に関する福岡地区水道企業団皆さんの熱い気持ちを心強く感じたとともに、私自身、安定した水利用ができる日々の生活に改めて感謝の念を抱く機会となりました。

●学生おうえん隊の『振り返りシート』のコメント

福岡都市圏の大学に通う学生を対象に創設したマネジメントスタッフ（学生おうえん隊）の皆さんには、振り返りシートとして、事業を振り返っての感想などをいただいたので、ご紹介します。

牛嶋 さん

ほかの参加者の方は、友達と一緒に参加だったり、ゼミが同じだったり、私だけ同大学の人がおらず、コミュニティに関して最初は不安を感じていました。しかし、共に活動していく中で、同じ目標を持つ者として協力することができたと確信しています。確かに最初は非常に緊張していましたが、折角参加したのだから何か貢献したい、参加してよかったと思えるようにしたいと考え、積極的に発言したり、質問したりしました。この経験は社会人になってからの人付き合いでもきっと役に立つだろうと考えます。

また、私は主にバスツアー企画でのしおり作成や当日のサポート等に従事しました。特にバス内でのクイズでは、こどもたちが喜ぶような設問内容・雰囲気づくりに苦労したのを覚えています。当日のこどもたちの反応を見るまで少し緊張していましたが、プレッシャーでも本番でも評判がよく、参加者のみなさんのくすっとした笑いを聞くことができました。そして、ツアーでは私も一参加者として水がどうやって運ばれてきているのか検査されているのかを、小学生ぶりに改めて学ぶ、貴重な機会となりました。このツアーで、新聞社の方から取材を受け、新聞に載ったことも一生忘れません。

この事業を通して、水への理解を深めることができたのは勿論、自身の行動力をさらに高めることができました。緊張したことも、不安だったことも、今ではすべて私の糧になっていると感じています。

山下 さん

学生マネジメントスタッフとして活動することで、自分自身も福岡の水事情についてよく理解することができました。昔は福岡で湧水がよく起こっていたという話を耳にはするものの、普段生活していると、実際に湧水で日常生活に支障をきたすということはなかなかありませんでした。しかし、そこには、過去の水不足の経験を活かし、筑後川からの導水、海水淡水化技術の利用および住民一人一人の節水の意識など多くの工夫や対策が積み重なって今の福岡の水事情が成立しているのだと実感することができました。また、活動を通して、筑後川流域の方々へ感謝の気持ちを伝えることもできたため良かったと思います。

松浦 さん

私はマネジメントスタッフの活動を通して自分の視野を広げることができました。「考えてみよう！ふくおかの「水」のこと@福岡テンジン大学」や牛頸まつりコスモス花見会等に参加し、普段関わることのない幅広い年代の方、様々な経歴、知識をお持ちの方と関わらせていただきました。その中で福岡の歴史や県外から見た福岡の良さ等を知り、自分が見ていた福岡の街とは違った視点から福岡を見ることができました。長年福岡に住んでいるので福岡のことはよく分かっていると思っていましたが、まだ知らないことが多くあり、福岡の一部しか見ていませんでした。このことから一つの視点から見るだけでなく、多方向から物事を見る必要性を学ぶことができました。

マネジメントスタッフとして楽しく活動し、成長することができたのは福岡地区水道企業団の皆様ののおかげです。本当にありがとうございました。

鎌田 さん

「水道水」というのは私たちの生活になくてはならないものです。今までその存在は私の中で「当たり前」で、毎日清潔な水が十分に供給されることに何の疑問も抱いたことはありませんでした。しかし、50周年記念事業にマネジメントスタッフとして参加する中で、福岡の水事情についての歴史を知り、今の私たちの水道水のある生活は過去の福岡の方々から考えれば大変貴重なものであるということ学びました。さらに、事業に運営側として関わるにあたり、人々の0の関心を1に変えていくことの難しさを学びました。水道水について興味を持って記念事業に参加してくださった人の多くは湧水の経験者で「水不足」に関心のある人でした。そのため水道水が当たり前となっている世代にそのありがたさを伝えることに苦労しました。マネジメントスタッフとして50周年事業に関わられただけでなく、参加者の一人として多くのことを学ぶことができました。

山鹿 さん

地域の方と関わる機会がコロナのため少なかったので久々に地域に貢献出来て嬉しかったです。そしてまた一緒に活動した方達とも繋がれたので良かったです。

私が一番印象に残ったのは牛頸まつりコスモス花見会です。思ってたより沢山の地域の方がきて下さったので嬉しかったし盛り上がったかなと思います。子供たちの笑顔からも力をもらいました！

児濱 さん

特に印象に残っている活動が2つあります。1つ目は福岡市博物館でのワークショップです。当日は運営する身でありながら、福岡の水のことについて初めて知ることに連続でした。又同じ班の方々の職種や年齢が様々であった為、水への考えのアプローチの仕方が全く異なり数時間で多くのことを学ぶことが出来ました。2つ目は筑後川のめぐみフェスティバルです。ここでは今まで学んだことを活かすことが出来ました。効き水では多くの方が興味を持って参加して下さい、筑後川のありがたみを感じる機会となったと思います。

柴崎 さん

大学生で社会人の方とよりよいものになるよう話し合いをしたり、一緒に活動をさせていただいた経験はなかなかないので、貴重な経験をありがとうございました。私はバスツアー班だったので、バスツアーに参加してくれた小学生にとって、このバスツアーが楽しい思い出になって、水について考えるきっかけになっていると良いなと思います。私は福岡の水について詳しくなかったので、この活動をする中で福岡の水について理解を深めることができました。筑後川への感謝を忘れず水を大切にしていきたいと思います。ありがとうございました。

植村 さん

50周年記念事業マネジメントスタッフ（学生おうえん隊）として活動するまでは、自分が普段当たり前のように使っている“水”がどこから来ているのか深く考えたことはなかったのですが、活動を通じて“水”について学び、駅や図書館などでステッカーを見ると「あ！ここにも貼ってある。やっぱり筑後川からの水が私たちの生活を支えてくれているんだな」と思うようになりました。私は福岡で生活してきた中で、水に困った経験というのはなかったので、福岡で濁水が過去に起きて給水制限があったという事実を知ったときはとても驚きました。今私たちが安定して水を飲んだり使ったりすることができるのは、様々な人の理解や協力があるからこそなのだとすることを忘れず、水を大切に使いたいです。また、事業を通じて沢山の人と関わったことも、とても楽しかったです！約一年間、自分の成長にも繋がる貴重な体験をさせていただきありがとうございました！

井上 さん

私は筑後川のめぐみフェスティバルの利き水体験にスタッフとして参加しました。市民の皆さんには、利き水の感想をいただいたり、筑後川の流域出身の方に地元のお話をいただいたり、たくさんの方とお話することができて、とても楽しかったです。また、私はこれまで、水道水は美味しくないとイメージを持っていましたが、実際に利き水をしてみると、どれが水道水、ミネラルウォーター、海水淡水化水なのか全くわかりませんでした。マネジメントスタッフの活動をしたことで、福岡都市圏に筑後川の水が運ばれていることを初めて知りました。いつも筑後川を守ってくださっている筑後川流域の方々には、感謝の気持ちでいっぱいです。

徳永 さん

私は、今回の事業を振り返って、水の偉大さを感じました。

筑後川のめぐみフェスティバルにおいて、福岡地区水道企業団のブースをお手伝いさせていただいたとき、会場は大変暑かったことを覚えています。そんな中、多くの方がブースに来られましたが、その理由は気になった、のどが渇いて水を飲みたい等多様なものでした。しかし、利き水をしていただいた後にテントから出てこられるときには、おいしかった、たのしかった等皆さん笑顔になっていました。私はその様子を見て、水はここまで人を元気づけられるものなのかと感動したことを覚えています。

短い期間でしたが今回の事業に関わって非常に嬉しかったです。

原田 さん

直接事業に関わってアイデアを出し合うことが楽しかった。

高巢 さん

大学生になり初めて自ら参加した活動であったため、大変貴重な経験ができました。学業との関係であまり活動には参加できませんでしたが、50周年式典ではご来賓の方々に胸章をつける役割をさせていただくことができました。格式高い式典に参加させていただくことは初めてでしたので、とても緊張いたしました。

このような貴重な経験をさせていただいたこと、大変感謝しております。ありがとうございました。

岡松 さん

記念事業の活動を通し、福岡地区の水資源に関する歴史や現状、また水道企業団が行っている活動について初めて知ったことも多く、自分自身の学びにつながりました。この事業を終えて以前より水資源に対する感謝の気持ちが大きくなったと感じます。

江藤 さん

福岡の水を支える水道企業団について知り、その節目の行事に関われたことをとても嬉しく思います。他大学の学生さんや実際に水道企業団に勤めておられる方との交流は学びが多く、有意義なものでした。これらの経験をこれからの学生生活や将来設計にも活かしていきたいと思います。

1年間ありがとうございました。

また、マネジメントスタッフの皆さんを企業団に招いて、記念事業を振り返り互いの交流を深めるため、振り返り交流会を実施しました。

今回の経験が、マネジメントスタッフの皆さんの今後の活躍に少しでも役に立つことをお祈りしています。
〈総務課 赤間〉



●PICFA への感謝状贈呈式【開催しました】〔12/20（水）きやま鹿毛医院内 PICFA 事業所〕

PICFAの事業所で開催された地域の方々との懇親会にて、当企業団より感謝状贈呈式を行いました。当企業団の設立50周年に際して、『まみずピア』の見学充実強化の一環で、「水」をテーマにトラックの幌に大きな絵を描いてくれました。作品はトラックに装着し、10月に市役所西側広場で開催した筑後川のめぐみフェスティバルの会場にも展示いたしました。

活動に対する感謝の気持ちを込め、企業長より感謝状と記念品を贈呈したものです。

アート作品は、トラックの幌に纏^{まと}い走行しています。

〈総務課 川中〉



トラックの幌に描かれた作品



感謝状贈呈式の様子



受賞者の皆さんと記念撮影

■ 水源地域との交流事業

2月の予定【開催されます】

● 大山ダム水源地域上下流交流事業(シイタケ駒打ち体験)〔2/24(土) 大分県日田市大山町〕

筑後川上流域の日田市大山町において、毎年、大山ダム水源地域上下流交流事業実行委員会の主催により、上下流域の住民や関係団体が交流と親睦を深めるとともに、^{たらいぼる}田来原美しい森づくり公園の環境整備を行うため、シイタケの駒打ち体験や交流会が開催されています。

今年も、大山ダムの施設見学や、アトラクション、日田おおやま梅まつり会場での散策などが楽しめる予定です。

当企業団は、福岡都市圏の住民、企業団構成団体及び福岡都市圏広域行政事業組合の職員とともに参加します。参加される構成団体の皆さん、当日の作業をよろしくお願ひします。

＜総務課 川中＞

日 程 令和6年2月24日(土)
開催場所 大分県日田市大山町
田来原美しい森づくり公園



大山ダム



田来原美しい森づくり公園

■ 水源地域の主なイベント【お出かけください】

1月、2月の予定

● 三夜さま(月読^{つきよみ}神社大祭)〔1/23(火)～25(木) 久留米市田主丸町〕

(公益財団法人久留米観光コンベンション国際交流協会から情報提供いただきました)

毎年1月23日から25日までの3日間行われる「三夜さま」は月読神社の祭礼です。

月読神社の御祭神は、^{つきよみのみこと}月読尊であり、古来から目の神様として信仰され、先を読むということから、開運の神や厄除けの神として崇拝されてきました。

目に霊験あらたかということから、樹木の芽もよく出るようにと願いが込められ、沿道で地元の植木や苗木も販売されます。

また、潮の干満が月の引力により引き起こされることから、安産、海上安全、五穀豊穰、大漁にもご利益があるとされています。

大祭が開催されるこの時期は、植木苗木をはじめ、多くの露店が立ち並び、大勢の参詣者で賑わいます。

日 程 令和6年1月23日(火)～25日(木)
開催場所 月読神社(久留米市田主丸町田主丸546-2)
問い合わせ先 久留米観光コンベンション国際交流協会田主丸事務所
TEL 0943-72-4956 FAX 0943-72-4959



●第19回久留米植木まつり〔2/8(木)～2/26(月)久留米市百年公園〕

(公益財団法人久留米観光コンベンション国際交流協会から情報提供いただきました)

久留米市の植木・苗木業は、江戸時代(元禄年間)に始まり、300年を超える伝統あるもので、全国に誇れる一大産地となっています。

期間中、久留米市の植木苗木の業者が一堂に会し、松、梅、ツツジ、サツキなどたくさんの植木・苗木・鉢物などの展示販売が行われます。

また、緑の相談コーナーも開設され、植物の育て方などの相談ができます。

日 程 令和6年2月8日(木)～26日(月)
開 催 場 所 久留米百年公園(久留米市百年公園2432-1)
駐 車 場 無料(久留米百年公園内500台)
問い合わせ先 久留米植木まつり実行委員会事務局
(久留米市田主丸総合支所産業振興課内)
TEL 0943-72-2110 FAX 0943-73-2288



●第32回筑後吉井おひなさまめぐり〔2/11(日・祝)～3/20(水・祝)うきは市吉井町〕

(うきは市から情報提供いただきました)

江戸時代、有馬藩の城下町久留米と天領日田を結ぶ豊後街道の宿場町として栄えたうきは市吉井町。その面影が今も残る風情あふれる白壁土蔵の町並みを背景に、町内の旧家をはじめ、町在住者が所有する江戸時代から現在までの豪華なものから珍しいもの等数多くのおひなさまが、各家々や商店・公共施設に展示されます。

白壁土蔵の町並みをゆっくりと散策しながら、おひなさまめぐりを楽しんでください。

日 程 令和6年2月11日(日・祝)～3月20日(水・祝)
開 催 場 所 うきは市吉井町
問い合わせ先 観光会館「土蔵」TEL 0943-76-3980



●第41回天領日田おひなまつり〔2/15(木)～3/31(日)大分県日田市〕

(日田市から情報提供いただきました)

江戸幕府の西国筋郡代の役所が置かれ、九州随一といわれるほどの繁栄を極めた天領日田。

掛屋を中心とする豪商たちが活躍し、町人文化が花開いた日田の旧家には、京都や大阪で買い求めた絢爛豪華なひな人形やひな道具の数々が今も残されています。

おひなまつりの期間中、豆田町や隈町の旧家や資料館では、ひな人形やひな道具が一斉に展示・公開されます。

春のひとつとき、昔ながらの町並みに風情を感じながら、ゆったりとおひな探しに出掛けてみませんか。

日 程 令和6年2月15日(木)～3月31日(日)
開 催 場 所 大分県日田市豆田町、隈町の各資料館・施設
問い合わせ先 一般社団法人日田市観光協会 TEL 0973-22-2036



※ 豆田流しびな [3/3 (日) 大分県日田市]

流しびなは、疫払いのために人形を川に流すもので、現在の「おひなまつり」の由来といわれています。

当日は、誰でも参加でき、流しびな体験なども楽しめます。

(入場無料)

日 程 令和6年3月3日(日) 10:00~14:00
開催場所 桂林荘公園(大分県日田市城町1-7)
問い合わせ先 一般社団法人日田市観光協会
TEL 0973-22-2036



流しびなの様子

■ 水道管の凍結防止策

寒さが厳しくなると、水道管が凍ったり、破裂したりすることがありますので、水道管の冬支度をお願いします。

○ 低温注意報が発令されたら

低温のため水道管の凍結・破裂など著しい被害が予想される場合、低温注意報が発令されます。

→ [福岡管区気象台HPはこちら](#)

冬の冷え込みが厳しいときは、気象情報に注意していただき、次の凍結防止策を行ってください。

○ 凍結しやすい水道管

- ・屋外に露出している管
- ・北側の日陰にある管
- ・風当たりの強い場所にある管



○ 家庭でできる凍結防止策

水道管の凍結防止には保温が一番の対策です！

- ・厚手の布や保温チューブ(市販品)で蛇口の上まで包み込んで、ビニールなどで防水してください。
- ・メーターボックスの中にも布や新聞紙を詰めて保温します。
- ・太陽熱温水器やボイラー、湯沸かし器などは元せんを閉め、水抜きしてください。

○ 水道管が凍ってしまったときは？

- ・凍った部分にタオルなどを被せて、ゆっくりとぬるま湯をかけてください。

※急に熱いお湯をかけると、水道管が破裂することがあるので注意してください。

○ 水道管が破裂した場合

- ・メーターボックス内のバルブ(元せん)を閉め、水を止めてください。

また、破裂した箇所を布やテープでふさいでから、お住いの市町等の指定給水装置工事業者に修理を依頼してください。

※水道メーターから宅内の修理費は自己負担となります。

→ [各市町等の連絡先はこちら](#)

水源情報

企業団ホームページの【水源情報】は、毎日（土日祝を除く。）最新情報に更新しています。

福水企

検索

アドレスをクリックすると、
【水源情報】が載っています
ので、見てね！！



・企業団ホームページ【水源情報】アドレス

<https://www.f-suiki.or.jp/waterquality-info/water-info/>



編集後記

筑後川流域の観光・イベント・特産品・史跡などの情報のうちから、今回は、日田市天ヶ瀬町の『かわぼるすいどう川原隧道』についてご紹介します。

江戸時代の日田は徳川幕府の直轄地であり、物資流通の要となる場所でした。川原隧道は、日田から玖珠へ玖珠川に沿って日田玖珠往還道があり、ここに隧道を掘って経路を短縮し、敷石を敷設して荷車などの輸送環境を改善するために掘られました。

川原隧道が造られたのは、江戸時代末期の嘉永7年(1854年)で、当時の日田代官塩谷大四郎の命により、豆田町の豪商、広瀬久兵衛が尽力したことが入口の石柱に刻まれている内容から分かります。

全長48m・幅約2m・高さ約3mのトンネルで、大分県史跡に指定されています。上半部に長さ1.6mの大きな石を八の字形に2個組み合わせ、掘削面を石積みで防護する構造で、隧道の前後には石畳も残されており、当時の様子を見ることが出来ます。

現在は崩落の危険があるため、隧道内部への立ち入りは禁止されています。

<川>



川原隧道入口



○川原隧道への交通・アクセス

公共交通機関 JR久大線 豊後中川駅下車 徒歩約1時間(約4km)

車の場合 大分自動車道 天瀬高塚ICより県道54号線 国道210号線経由で
約15分(約8km) 「川原隧道入口」標識より徒歩約10分

★ 構成団体の皆さまからの情報をお待ちしています！！

「ふくすいき～福水企～」通信では、今後も構成団体の皆さまの声や意見を掲載していきたいと思っています。

皆さまの周りでも、お知らせしたいことや紹介したい取り組み、イベント情報、また感想、ご意見などありましたら、ぜひ、ご連絡ください！！

よろしくお願いします。

たくさんの情報提供をお待ちしています！！



～ 情報を提供していただく場合 ～

掲載希望前月の末日までに、原稿を下記へメール送信してください
福岡地区水道企業団総務課交流広報係 kouhou@f-suiki.or.jp

福岡地区水道企業団では、企業団ホームページや SNS〔X（旧 Twitter）、Facebook ページ〕を通じて、企業団が行う事業や取り組み、水源地域や流域で行われるイベント等をわかりやすくタイムリーに情報発信しています。

ホームページの記事や SNS で発信した情報について、面白い、役に立ったなどと思われた方は、ぜひ、SNS の機能（リツイートやシェアなど）を使って、多くの方に情報を届けていただければ幸いです。

福岡地区水道企業団 H P

<https://www.f-suiki.or.jp/>

福水企

検索



福岡地区水道企業団 X (旧 Twitter)

福岡地区水道企業団



福岡地区水道企業団 Facebook ページ

福岡地区水道企業団



福岡地区水道企業団 YouTube ページ



福岡地区水道企業団



福岡地区設立 50 周年記念事業関係 HP,SNS

50 周年記念特設ページ



アイアンキングの部屋



企業団 50 年のあゆみ (Web 版)

